第23回地域福祉実践研究セミナー
ワークショップ6

地域の助け合いと
生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの役割
～居場所・生活支援・福祉ボランティア～
住民主体で進める生活支援事業の実践から学ぶ

アドバイザー　秋山由美子（日本地域福祉研究所）
菱沼　幹男（日本社会事業大学）
コメンテーター　西尾　淳史（静岡福祉大学）

日本地域福祉研究所作成
複写禁

参加者状況

1. ワークショップ会場

大日本報徳社

2. 参 加 者

- 社協　25名
- 地域包括　9名
- 社会福祉法人　6名
- 行政　5名
- ＮＰＯ法人　2名
- 町内会　2名
- 民生委員　1名
- 一般　1名
- 大学生　5名

計56名

目　的

介護保険制度の改正に伴い、地域の多様な担い手による生活支援を推進するため、全ての市区町村に生活支援コーディネーターが配置されている。生活問題の解決を住民に丸投げすることなく、公私協働の地域づくりを進めていくために、生活支援コーディネーターは何をすべきか、具体的な展開方法を参加者と共に考えていく。

日本地域福祉研究所作成複写禁

展開方法①【ミニ講義】

「生活支援体制整備事業と
生活支援コーディネーターの役割」
日本社会事業大学　菱沼幹男氏

〇なぜ地域の支えあいが大切か
　公的サービスの補完でなく、社会的孤立をなくすため
〇生活支援コーディネーターとCSWの関係
　地域支援は共通、地域支援会議の重要性
〇生活支援Coは地域支援を担う人材
　だからこそ個別の事例検討参加が重要

展開方法②【事例報告１】

磐田市社会福祉協議会　　守屋充子氏

■人口170,000人

■住民の学習の場、社会参加支援、連携、
生活支援・居場所への支援

■地域課題に関する気づきと受け止め
気づきを受け止める人・組織が必要
→地区社協　せいかつ応援倶楽部

■地道にニーズを把握し、どう繋げていくか
賛同する仲間を増やす仕掛けをするのが
生活支援Co

展開方法②【事例報告２】

磐田市豊岡地区社協　　江間彦之氏

■人口11,000人
■H25年度～地区社協でせいかつ応援倶楽部
■生活支援の原則、地域支援員の心得、
　行動指針を作成
■１時間３００円、
■H28年度　支援件数(638件)、支援員数(38名)
■できる人とは一緒に草取りや料理を行う
■自分達の生きがいにやってよかった
■担い手の確保は、口コミと役割を作る

展開方法②【事例報告３】

たすけあい遠州　　稲葉ゆり子氏

■常設型の居場所と時間通貨の助け合い
■赤ちゃんから90歳代の方まで
■いつ来てもいい　いつ帰ってもいい
■自然なつながりは そのまま そのまま
■ここには役割がある　頼まれると嬉しい
■現場の声を受け取る距離
　　小さい声で話したい人もいる
■１時間でいいから、地域のための活動を

展開方法③【グループ討議】

地域の困りごと、課題を考える

- 住民の生活問題
- 活動、運営上の悩み
- 業務上の悩み

地域の困りごと、課題の解決方法を考える

- 住民と一緒に取り組みたいこと
- 行政や専門職と連携したいこと
- 自分の所属組織でできること

地域の困りごと・課題

■地域活動の担い手の確保
■移動（買い物、通院、認知症の免許返納）
■孤立、ひきこもり、居場所がない
（高齢者、若者、精神障害）
■生活困窮、就労
■単身世帯の増加
（ペット、入退院支援、受診付き添い）
■複合ニーズ世帯
（805020問題）
■その他、地域性の問題：除雪、津波、無医地区

地域の困りごと・課題の解決方法

＜各グループで焦点を絞っての検討＞

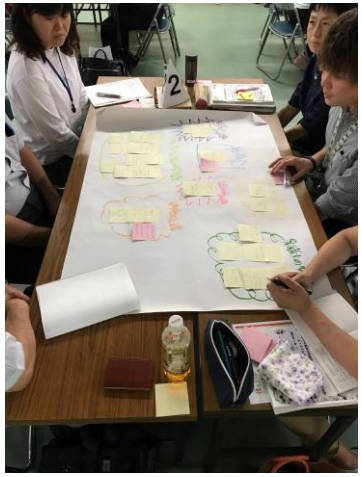
■出された意見

ご用聞き、ネットスーパー、宅配、
乗り合いタクシー、デイの車両活用、
マイカー送迎、企業のCSR、世代間交流、
男子会、隣人まつり、空き家バンク、
防災との連携

※既存の社会資源の把握と活用

例えば、コメダ珈琲での自然発生サロン等

グループワークの様子



西尾氏によるコメント

- 報徳の徳は、人それぞれの良さや取り柄。
  それぞれの良さを生かした支援
- 二宮尊徳は、村廻（家庭訪問）と
  寄り合い（芋こじ）を大切にしてきた。
  「芋こじ」とは、桶にためた水の中で、芋を
  転がして洗うこと。話し合いを重ねる中で
  住民の意見がまとまってくる。
- 私ごとを私たちのことへ
  参加しやすい場、話し合いの場の大切さ
  地域の力に気づき、つなぐ

アドバイザーによるコメント

- 地域住民の底力
- 障害者、若者、子ども達にも意識して
  目を向ける
- 地域の助け合い活動の基盤となる
  福祉教育の大切さ
- 話し合う際のデータを集めて、整理する
- 他地域の良い実践を真似て、
  行動を変えていく

まとめ【ワークショップでの学び】

生活支援コーディネーターに求められる役割

住民の生活実態を把握し、データを作成

関係づくりと話し合いの場づくり

地域の力を生かし、実情に応じた地域づくり

日本地域福祉研究所作成複写禁